2026 年 10 月 29 日発行　第７７４号

◆◇◆◇◆――――――――――――――――――――――――――――◆◇◆◇◆

＊＊舩井メールクラブ＊＊

いまお知らせしたいこと

◆◇◆◇◆――――――――――――――――――――――――――――◆◇◆◇◆

（今回の執筆者：舩井勝仁）

《目次》

●大難を小難に
●自分が整えば、世界も整う
●腹で儲ける
●恵比寿さま
●AI とは何か

●大難を小難に

第 1 週目は、神道研究家で一般財団法人アノアス代表理事の中矢伸一先生と佐野浩一主幹の対談です。

中矢先生と言えば日月神示で、晩年の父は中矢先生の説かれる日月神示の考え方に大きな影響を受けていました。

対談の冒頭では、舩井幸雄オープンワールドのメイン会場で、父の最後のまとめ講演の直前までずっとお話ししてくださった思い出を語っていただいています。あの規模のイベントをやりきるのは大変で、運営の陣頭指揮をとっていた佐野が対談の中で最終盤の中矢先生のご講演までたどり着いた時の安堵感をにじませていたのが印象的です。

申しわけない言い方になってしまいますが、比較的客観的に見ていた私は、あの時の中矢先生のご講演の会場の熱気が忘れられません。舩井幸雄に対するリスペクトの気持ちが会場を巻き込んで一体感を作っていくのが伝わってくる安心感と共に、ここから世の中が大きく変わっていくのだという期待感が、会場から強烈にあふれてきていました。これも主催者にあるまじき発言になってしまいますが、ただ、あくまでバーチャルで、会場を出て、明日職場に出勤されたら元の日常生活に戻ってしまうのだという無常感も、何となく感じ始めていたことを思い出しています。これは、当時のスピリチュアルなイベントの限界でしたが、

最近は、本当にこの興奮のまま世の中が変わっていく可能性があるイベントも出現してきたように感じます。

私も出演させていただく、日本岩戸開きの会（ https://nippon-iwatobiraki.com/2026/sl/ ）の昨年のイベントに出席して、講師とスタッフの懇親会の席で感じたことがあります。
オープンワールドの時はあくまでバーチャルの限界を感じていましたが、世の中の意識レベルが変わってきて、本当のことを伝える手法もより直接的に魂を揺さぶるものが増えてきました。また、中矢先生も取り組んでおられる YouTube などのメディアの影響もあり、リアルとバーチャルの垣根がどんどん低くなってきていることを感じます。

「未来を実装するメディア」をタグラインに掲げるテックカルチャー・メディア『WIRED』日本版の編集長の松島倫明氏が書かれた『FUTURES LITERACY（フューチャーズ・リテラシー）：未来という難問を解く』（ニューズピックス　https://link.amazon/B00QDVWLn ）を読んでいたら、バーチャルというのは日本語にすると一般的に「仮想的」という翻訳になりますが、英語の、というか語源であるラテン語から考えると「実質的」というニュアンスが強いということを教えていただきました。オープンワールドの頃は、まだまだ仮想感が強かったのですが、いろいろなメディアの発達とそれを使いこなせる方が増えて、実質的に伝わるようになってきたのだと思っています。

最近の中矢先生のマイ・トピックスは松果体だという話は面白かったですね。松果体の石灰化から本来の機能を取り戻すための取り組みが、世の中を変えていくであろう若い人たちの応援のために私たちがやるべき大事なことなのかもしれません。

食品添加物や農薬フリーの食事を選べる環境を作っていくという基本的なことから、地道に取り組んでおられるのが、いまの中矢先生です。前向きな話として、新規に就農を目指される若者たちは 100%有機農法に取り組まれているということも紹介されていました。

若い人たちには、本能的に自分たちに何が必要なのかをわかっている人が多いということで、本当にホッとする動きです。
私たちも経済的で便利な社会は作り上げましたが、本当に大事なことがわからなくなってしまったのは残念ですが、FMC を読んでくださっているような方は、それに気がついた方たちです。自分の身の回りでできることから、自分たちのためにだけではなく未来を担う若者たちに少しでもいい環境を残すことが大切だということを改めて感じさせていただく対談でした。

中矢先生も佐野も、そして私も年齢を重ねました。いろいろな経験が増えたことはありがた

いことですが、中矢先生や父が創ってきた大難を小難にするムーブメントをしっかりと次世代につなげるようにしていく責任を痛感しています。

テクノロジーの進歩が大難を避けられないものにしてしまっている面もありますが、私たちの精神意識のレベルが上がれば、テクノロジーのポテンシャルを社会のためコスモスのためにより有効に使えるようになるのだと思います。昔を懐かしむのは父が嫌いなことのひとつでしたが、今回はそれを思い出しながらも、さらに未来に向けて進んでいきたいと決意を新たにさせていただきました。

●自分が整えば、世界も整う

第２週目は、愛の翻訳者であり、ご縁道統合プログラムを主宰されている Naomi 先生です。本物研究所とヴォイスグループが経営統合したことを喜んでいただき、冒頭に動画と本のコンテンツをご紹介くださっているのは、ありがたいことです。
私もその動画を見て、それから本も購入して読ませてもらいました。正直に書くと、どちらもかなりきつく感じました。今回の Naomi 先生のメルマガのテーマは AI は鏡であるということですが、AI は世界を代表して自分に向き合ってくれているものととらえればよく、Naomi 先生には心地よいものが、私のような荒い波動を身にまとっている者には辛く感じられることが、とても面白い体験でした。

動画に登場されるリズ・ブルボーさんは、カナダではあらゆる記録を塗り替えた『自分を愛して』（ハート出版　https://link.amazon/B08mObIsw ）という超ベストセラーの著者です。普段なら手に取らない分野の本ですが、なぜか買って読んだ形跡があります。もしかしたら、FMC で Naomi 先生か誰かが紹介されていて、それで読んだのかもしれません。母と同じ年のお生まれだと気がつきました。動画の収録は 5 年ぐらい前のことかもしれませんが、それにしても本当にお若く見えてびっくりしました。Naomi 先生もそう言えば、まったく変わられない印象があり、愛に生きている本物の女性たちは年を取らないという奇跡を実感しています。

マイク・マクマナスさんの『ソース～あなたの人生の源は、ワクワクすることにある。』（ヴォイス　https://link.amazon/B0hMJaFFT ）は、存在すら知りませんでした。こちらも、普段あまりスピリチュアルの分野のインプットをしていない私にとっては、なぜか読み進めるのがとてもハードに感じた本でした。ワクワクすることをやらない人生を送ってしまっていることを突きつけられるのが、きつかったのかもしれません。

Naomi 先生は、常にワクワクすることに全力投球で取り組んでおられる感があるので、こ

の辺もレベルの違いを感じます。今回は、コメントを書く立場でNaomi先生の愛の翻訳を多少は受け取れたことをうれしく思います。
ただ、辛くはありましたが、本を読んだ甲斐はあったと思います。本が出版されたのが1999年ということもあり、中心のワクワクとして取り上げられていたのが演劇や音楽などをやっていくことで、あまりにも私の興味のない分野だったので辛く感じたのかもしれません。しかし、一晩考えてみると、私はワクワクすることばかりをやって生かしてもらっていることに気がつきました。例えば、私はなぜか若い時から金融が大好きで、金融の本を読んでいるとワクワクします。金融機関で働いているわけではありませんが、かなりそれに近い仕事をさせていただいています。

特に、ここ2年ぐらいで、まだまだ課題は山積みですが、思ったことがどんどん実現してくるようになりました。時代の変化がまさにヴォイスの著者たちやNaomi先生たちのやってこられた方向にようやく追いついてきたのかもしれないと改めて感じています。私は、ちょっと時代遅れのテーマにワクワクを感じますが、逆に言うとそんなテーマにも愛を届けられるようにしていくのが、これからのワクワクテーマかもしれません。そして、『ソース』を読むのがきつかったのは、かなり意識を入れて取り組んでいかなければならないということを示唆してもらったようにも感じています。

ところで、今回のNaomi先生のメルマガの主要テーマはAIです。
愛の翻訳者しか書けないようなAIの使い方ですが、私も実は同様の経験をしたことがあります。AIを使う時に手放すべき3つの態度：【丸投げ】【品定め】【察してちゃん】の内、【丸投げ】と【察してちゃん】を見事にやってしまって、しかもかなり感情的に怒りをぶつけてしまったことがあります。

私は原稿を書くのにはある程度の自信があるので、原稿そのものはAIに頼りませんが、講演のスライドを作るのには苦手意識があるので、ある程度慣れてきた段階で見事にこの罠にはまってしまったのです。

私の対処法は、主催者にお願いしてスライド提出の締め切りを遅らせてもらって丸1日、冷却期間を置きました。そうすると、特に【丸投げ】してしまったことの無理が自分で理解できたので、AIに対して謝罪の感情を込めて話しかけると、いい解決方法を提示してくれて、事なきを得ました。主に、材料集めのための壁打ちという対話をよくやるのですが、その反応を見ていると【丸投げ】しても大丈夫だと思ってしまったことが大きな勘違いだったことにいまでは気がつきます。

2年ぐらい前に、大手企業に生成AIの導入のコンサルティングをしている人のミニ講演を

聞いた時に教えてもらったポイントは、(1) 敬語を使って話しかけることと、(2) あえてパワハラのような過大な要求をしてもよいということ。(2) の方は、AI は感情的ではない仕事量的なプレッシャーを感じないので、道筋さえちゃんと示していれば人間なら過剰な仕事量を要求してパワハラだと呼ばれてしまうようなものを投げてもちゃんと答えてくれる、そこが AI の良さだという意味で理解しています。Naomi 先生のメルマガを読んでわかったことは、形式的なテクニックではなく、自分の感情を冷静に整えることが AI を賢く使う方法だということです。
一見、通常の AI の使い方にはまったく出てこない方法論ですが、AI が自分の内面を代表して映し出してくれるわかりやすい鏡だと仮定すると納得する話です。つまり、AI に対処するために自分が整えば、実はおのずと世界は整ってくれるということであり、それはリズさんやマクマナスさんのおっしゃっていることと何も違わないことがよくわかりました。
AI 時代だからこそ、スピリチュアルの能力が使えるようになってくる可能性を感じさせてくれる素晴らしいメルマガだったと思います。

●腹で儲ける

第 3 週目は、FMC ではおなじみで今年 2 度目の登場になる経済アナリストの朝倉慶先生です。ここ数年の日経平均の爆上げを見事に予想されて、いま最も人気のあるアナリストのおひとりになっています。朝倉先生はセンセーショナルな断言で人気がありますが、父が一番信頼していたのはマクロにメタ認知で経済の行方を捉える能力にあったのだと思います。

インフレの本当の意味は、通貨価値が下がっているということだという本質を、最近はズバリ教えてくれています。通貨は国家の信用を代表しているものと考えることができ、だから国家というものを人々が信用できなくなってきているということまで示唆しているのかもしれません。

実は、資産価格が上がったかどうかを考えるときの通貨は円でもドルでもなく、金（ゴールド）で考えるのが本当の指標かもしれないと考えたことがあります。株価にしても不動産価格にしても、長い目で金に比べれば下がってしまっていることを考えると、円やドルで見れば上がっていても、それは通貨の価値が下がった分の見かけの上昇にすぎないのかもしれません。金は金利もつきませんし、全体の量もかなり限られているのでドルや円のようにはいきませんが、通貨、つまり国に信用がなくなると上がっていくというのが本質なのだと考えればいいと思っています。
朝倉先生は、父の時代から国家というものが壊れていくという警告をずっと発し続けておられます。それを経済学者の目ではなく、相場師の目で見ているということを赤裸々に伝えてくれている良書が、朝倉先生の新著『勉強しなくてよかった』（ビジネス社

https://link.amazon/B09KnrSV1 ）です。
親しくお付き合いさせていただいていますが、本書を読んで何も先生のことがわかっていなかったことに気がつきました。本書によると、朝倉先生は根っからのギャンブラーのようです。父と運命的な出会いをする前は、気楽に人生を謳歌されていたように感じます。ただ、リーマンショックが来る必然性を相場師の視点で説いていたことが、ご縁があって父の目に留まり、世の中に引っ張り出されることになりました。

（※この続きは、【舩井メールクラブ】の会員様サイトからお読みいただけます）

《今回の執筆者：舩井勝仁のプロフィール》

●舩井勝仁（ふない かつひと）●

（株）船井本社　代表取締役社長

１９６４年大阪府生まれ。

１９８８年（株）船井総合研究所入社

１９９８年同社常務取締役　同社の金融部門やＩＴ部門の子会社である船井キャピタル（株)、(株) 船井情報システムズの代表取締役に就任し、コンサルティングの周辺分野の開拓に努める。２００８年「競争や策略やだましあいのない新しい社会を築く」という父・舩井幸雄の思いに共鳴し、（株）船井本社の社長に就任。

「有意の人」の集合意識で「ミロクの世」を創る勉強会「にんげんクラブ」を中心に活動を続けてきた（２０２４年３月末に閉鎖)。

著書に『生き方の原理を変えよう』(２０１０年 徳間書店)、『未来から考える新しい生き方』（２０１１年 海竜社)、『舩井幸雄が一番伝えたかった事』(２０１３年 きれい・ねっと)、『チェンジ・マネー』(はせくらみゆき共著 ２０１４年 きれい・ねっと)、『いのちの革命』（柴田久美子共著 ２０１４年 きれい・ねっと)、最新刊に『失速する世界経済と日本を襲う円安インフレ』(朝倉慶共著　２０１４年１１月ビジネス社)、『SAKIGAKE　新時代の扉を開く』(佐野浩一共著 ２０１４年１１月 きれい・ねっと)、『聖なる約束　　砂漠は喜び砂漠は花咲き』(赤塚高仁共著 ２０１４年１１月 きれい・ねっと)、『智徳主義【まろＵＰ！】で《日本経済の底上げ》は可能』(竹田和平、小川雅弘共著 ２０１５年１０月 ヒカルランド)、『日月神示的な生き方　大調和の「ミロクの世」を創る』(中矢伸一共著 ２０１６年 きれい・ねっと)、『聖なる約束３　黙示を観る旅』(赤塚高仁共著 ２０１６年 きれい・ねっと)、『お金は５次元の生き物です！』(はせくらみゆき共著 ２０１６年 ヒカルランド）がある。

＊舩井幸雄.com　http://www.funaiyukio.com/
